

(様式2)

### 放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	<中・6> いわき市立 豊間中学校		
<実施日>	平成 27年9月7日(月)		
<実践教科等>	1 理科    ② 学級活動    3 総合的な学習の時間    4 その他( )		
<実践内容>	<p>中学1年～3年まで合同で、エネルギー・環境理科教育推進研究所から講師を招いて、講義を行った。</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○放射線の基本的な知識の講座<ul style="list-style-type: none"><li>・<math>\alpha</math>線、<math>\beta</math>線、<math>\gamma</math>線、X線等のちがい</li><li>・放射線による人体への影響度(Sv)</li><li>・放射線の利用(X線等)</li></ul></li><li>○霧箱を用いて放射線の観察を行った。</li><li>○放射線測定器(はかるくん)による放射線量の測定</li></ul> <p>放射性物質からの放射線量を測定し、放射線源からの距離によって放射線量が変わることや、金属などによって遮蔽されると放射線量が減ることを測定する。</p>		
<成果>	<ul style="list-style-type: none"><li>○専門家による講義で分かりやすく、測定器や霧箱など、放射線を目に見える形にしたので、興味を持って取り組み、理解も深まった。</li><li>○測定器や霧箱などの実験器具は、数をそろえるのは小規模校では容易ではなく、また、性能の良い霧箱を持参してくれたので、大変見やすかった。</li><li>○1年生と2年生は、放射線の講義を受けたことがなかったので、放射線を知る良い機会となった。</li></ul>		
<課題>	<p>放射線について講義をするには、理科教員や専門機関の講師が適切だと思われる。これまで、除染情報プラザが行っていた、生徒児童対象の講座は終了し、(教職員や保護者対象へ今年度は実施)。放射線の講義や説明を実施する機関は、今後も減っていくことが考えられる。教職員の多くが、放射線について、科学的に、客観的に生徒に説明できなければ放射線教育ができない。教職員が自主的に学ぶだけでなく、教育委員会主導で教職員対象の講座を設けなければ、指導できる教員は増えていかないと思われる。また、学校で生徒を対象にして、講義する機関のリストも作成すると良いと思う。</p>		
資料作成担当職(教諭)	氏名(高野 勤)	学校電話番号(39-4840)	

**【資料作成上の注意】**

- 1 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 2 提出期限の平成28年8月1日（月）までに電子メールで返信して下さい。  
（返信先 : kakuta-k@city. iwaki. fukushima. jp)